

令和6年度 自己評価・施設関係者評価

幼保連携型認定こども園 はるまちこども園

1. 保育理念

子どもたちの主体性を尊重し、子どもの最善の幸せを願いながら保護者や地域社会と共に歩める保育を目指す。

2. 運営方針・目標

- ・保育理念を実現するため、子どもを中心に保護者と保育者が共に育ち合えるこども園を目指す。
- ・保護者、地域と連携を大切に子どもたちをはじめ人から愛されるこども園をめざす。
- ・子どもたちの幸せを願い職員は子どもの姿を学び取りながら、質の高い保育を追求していく。
(子どもの良き理解者であること)

3. 保育方針

- ・子どもが心身ともにその子らしく成長することを見守る。
- ・遊びを通し、生きる根っ子を育ませる。
- ・子ども自身のもつ自己表現、主張を十分に発揮できる力を養う。

4. 評価項目の達成及び取り組み状況

A	大変よい
B	よい
C	一部検討を要する
D	改善を要する

項目	内容	評価	取り組み状況
保育・教育目標について	本園の理念・目標・方針が職員に周知されているか	A	・保護者には入園説明会、4月の園だより、ホームページ上で伝えているが、発信を強めるだけでなく、園の方針に保護者自らが興味を持てるよう行事等の園の思いも伝えてきた。
	本園の理念・目標・方針が保護者に周知されているか	B	
	理念・目標・方針に基づいた教育保育が行われているか	A	
教育・保育の計画	指導計画は乳幼児の心身の発達を踏まえ一年間の見通しを持った内容になっているか	A	・「子どもにとって」の目線で日々の保育や行事を無理のないように進めたが、保護者にとっては特に行事において物足りなさもあったようだ。
	子どもの生活が豊かになるように行事を精選し、子どもの発達を踏まえ無理なく進めているか	A	

項目	内容	評価	取り組み状況
子どもたちの 発達援助	子ども一人一人の健康状態や発育・ 発達の状態を把握し、職員間で共有 されているか	B	<ul style="list-style-type: none"> ・年々、職員間での情報の共有は優れてきているが、現状に満足するのではなく更に園の強みとしていきたい。 ・可能な限り子どもとの個別の時間や小集団での活動も取り入れた。 ・子どもたちが今頑張っていることに共感し、クラスや担任間を超えて取り組んだ。その結果、幼児組全体で朝の縄跳び練習が始まり、未満児クラスも応援に駆けつけていた。 ・身近な自然に触れそれを利用し製作を行ったり、出かけた先で見つけた自然物をおみやげとして低年齢の子どもたちにも共有したりしていた。 ・専門職の人に話を聞き、学びとなった。またそれを園内で共有、実行してみた。
	子どもたちが、安心感を持って過ごし、 自分の気持ちを安心して表すことができる よう留意しているか	A	
	子どもたちの興味や関心に沿って環境が 工夫され夢中で遊ぶことを大切に考 えているか	A	
	子どもたちの「やってみたい」「知り たい」気持ちを高め、チャレンジし てみることや最後までやり抜くこと ができるような援助をしているか	A	
	子どもたちが身近な自然の美しさや 不思議さを五感で感じる体験が出来る ような教育・保育が展開されているか	A	
	配慮が必要な子どもが安心して生活 できる保育環境が整備され、教育・ 保育の内容や方法に配慮されているか	A	
職員面の連携等 について	子どものことについて、保育者同士 で話し合い、クラスをこえて情報の 共有がされているか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・設定されていた会議以外にも職員間で進んで子どもの情報共有の時間を設けていた。
保健・安全管理 について	園内外が清潔で心地よい空間になっ ているか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の清掃に加え年間に3回の大掃除を行っている。また、高所の窓掃除は業者依頼も行っている。 ・インスタグラム掲載等、園外へ発信する際は何度もの確認を行っている。 ・子どもの怪我は、全職員で共有し誠意を持って対応している。 ・職員の人数も増え、消防署での救急法受講に全員受講が難しい。
	個人情報の取り扱いについて、しっ かりと守られているか	A	
	園で起きた事故・怪我に対して誠意 を持って対応しているか	A	
	事故予防・救急対応・火災・地震・ 不審者侵入等に臨機応変に対応出来る よう、研修受講や訓練が行われて いるか	B	

項目	内容	評価	取り組み状況
保護者との連携 について	園からのおたよりやその他の方法 で、日々の子どもの様子を伝えている か	A	・動画、ドキュメンテーション、 おたよりなど色々な方法で子ども たちの様子を発信した。
	個々の子どもの様子を連絡帳や直接 的に伝え合っているか	B	・保護者自らの話には十分な対応 は出来たが、自らの発信が少ない
	保護者の子育て感を聞き取り、連携 して子育てにあたっているか	B	方へ発信しやすい園の雰囲気づく りを大切にしたい。
地域子育て支援 について	地域における子育て家庭に心を寄せ 気軽に立ち寄る雰囲気があるか	A	・子育て支援「ひだまり」でのリ ピーターが増え回数増加の依頼も 受けた。
小学校との連携 について	円滑な接続のため小学校への訪問・ 交流を実施しているか	A	・田植え体験を通して小学校との 交流の機会が増えた。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
理念・目標・方針の周知	・日々の保育、行事を「子どもにとって」という目線で計画し保護者 にも共感してもらえるよう園の想いを伝えて行く。
保護者との連携について	・どんなことでも園に相談してもいいんだという雰囲気作りを大切 にしその雰囲気を広げていきたい。
配慮が必要な子どもに対して	・継続的に園内研修で学び園全体で専門性を高める。
安全管理について	・職員数が増え、全職員継続的な救急法受講が難しくなってきた。園 内で動画等を利用し振り返りの時間を設ける。

6. 施設関係者評価委員のご意見

○こども園の理念、目標方針が職員に周知されているところは良いと思う。

保護者に対しても日々の保育や行事等での先生たちの思いをどんどん伝えていってほしいと思う。

○乳幼児の心身の発達を踏まえ、「子どもにとって」何が今最善であるかといった目線を大切にした保育を進めてくださっていたことがよくわかった。

○こどもたち一人一人の興味や関心に寄り添う保育をしていることがよくわかった。

また、クラスを超え、子どもたちが刺激し合い挑戦しようとする姿を支えるなど園全体での取り組みも良いと思う。

○クラスだけでなく、園全体での職員間の連携、情報共有がしっかりとされているのは良いと思う。

○園内外は整理整頓され、清潔に保たれていた。また事故や怪我について全職員で共有して対応しているところも良いと思う。

○こどもたちの様子をおたよりや動画、ドキュメンテーションなどさまざまな方法で伝えることで保護者との連携をとろうとしていた点は良いと思う。

○地域子育て支援についてはインスタグラムなどで配信されている活動記録からも楽しそうな雰囲気が伝わってきた。

○小学校との連携では田植え体験を通して小学校をより身近に感じ、小学生との交流を共に楽しめていたようだ。

こども園における自己評価・施設関係者評価の結果がまとまりましたので
ご報告いたします。自己評価・施設関係者評価の結果を踏まえ、今後の
教育・保育の質の向上並びにこども園の資質向上に努めて参ります。